会　議　録

1　会議名

平成 30 年度第 8 回諏訪区地域協議会

2　議題（公開・非公開の別）

（1）報告事項　（公開）

・ 会長会議の概要について

（2）自主的審議議事項　（公開）

・移住促進諏訪の会による視察結果について

3　開催日時

平成 30 年 12 月 5 日（水）　午後 7 時から午後 8 時まで

4　開催場所

諏訪地区公民館　集会室

5　傍聴人の数

なし

6　非公開の理由

なし

7　出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委　員：内山惠悟、内山松男、川上奈津子、川上久雄（副会長）滝澤隆行
武田輝夫、西嶋明子、星野一巳（会長）、山岸 愛、山岸一之
（欠席 2 人）

・事務局：中部まちづくりセンター　本間センター長、野口係長、田中主事

8　発言の内容　（要旨）

【野口係長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【星野会長】

・会議録の確認：山岸愛委員に依頼

次第 2 議題「（1）報告事項」の「会長会議の概要について」に入る。事務局に説明を求める。

【野口係長】

11 月 14 日に学びの交流館にて開催された会長会議の概要について報告したい。この会長会議では主に、地域活動支援事業についての検証評価のフィードバックが行われた。本日、当日配布した資料を事務局にて一部加工したものを配布している。非常に細かい内容となっているため詳細は割愛するが、結論からいうと自治・地域振興課では各自治区から様々な意見・提案等があったが、全市的で統括的なルールの作成は行わないと決定した。市としては、これらの方向性を「見解」や「案」というかたちで示すに留めた。つまり制度として拘束力を持たせるのではなく、それぞれの地域自治区に合った地域活動支援事業の制度設計にて、これまでどおり自治区ごとに利用しやすい見直しを行っていくことが適切と判断した結果である。制度として見直さなかった理由としては、自治区ごとにルールの違いがあってこそ地域に則した補助事業であり、またそれが地域自治区本来の姿であると捉えたためだ。制度・ルールの全市的な統一により自治区の裁量を狭めることは、市が本来望み、考えている姿ではないからである。したがって、1 月に行う新年度に向けた地域活動支援事業の採択方針等の見直しについては、これまでと同様のやり方とし、加えて、今回行った全市的な見直しの中で諏訪区として活用できる部分は活用して、諏訪区に相応しい、使い勝手の良いルールとなるように作業を進めていきたいと考えている。これらの資料については、1 月の見直しの時までに一読し見直しに役立ててほしい。簡単ではあるが、以上で概要報告を終了する。

【星野会長】

当日出席した会長である自分からも簡単に感想をお伝えしたい。当日は、様々な問題について、市からのアドバイス等をうけながら 3 つのグループに分かれて意見交換を行った。

自分のいたグループで出た意見等の中からいくつかを説明する。地域活動支援事業の審査に係る時間が非常に多大であり、本来の自主的審議の時間がなかなか取れ

ない。そのため、審査は行政に任せて、自主的審議に専念してはどうかとの意見が出た。しかし、地域活動支援事業は、地域での活動状況を知り地域を活性化するための事業であり、それは地域協議会の役割であるとの結論となった。地域協議会の仕事として効果的な活用となるように、区ごとに採択方針を決定し、継続すべきとの意見にまとまった。

次に、各区への配分額については、現在、総額1億8,000万円を均等割7、人口割3で配分している。諏訪区では均等割の450万円に人口割を加えた480万円が配分されている。28区の中には人口が減少する区もあり、増加している区もある。そのため、一律に線引きをして配分額を決定することがなかなか難しい。人口は少なくても、同じような活動を実施すれば相応の予算がかかる。有効利用することを考えると、現行の7対3の配分割合は妥当ではないかとの意見が多数を占めた。諏訪区の場合、人口1人あたりの配分額を見ると一番高い。この機会を有効に活かして地域活性化のために更に役立てなければならないと感じた。

次に、配分残額の扱いとして、諏訪区も含めて追加募集を行っている区が多い。しかし、追加募集は使い切らなければ勿体ないといった傾向が見られる。だが、当初募集ではどの程度の申請が出るかが分かりづらく、また、他の提案者への遠慮もあるようだ。他区では必ず減額しなければいけないというところもあり、余ったら追加募集すれば良いとマンネリ化してしてきている区もあるようであり、取扱いは様々である。各区によりそれぞれ事情が様々あるが、会長会議では翌年度への繰り越しを希望しているとの意見が多かった。しかし、現状は年度ごとに予算を使い切り、次年度には繰り越させない制度となっているため、市に対して繰り越しを継続的に要望していきたいと考えている。

次に、審査でのヒアリングやプレゼンテーションの実施については、各区の判断に一任されているが実施している区が多かった。

次に、申請額が配分額を超過した場合の決定方法については、一律減額といった意見や、各申請者と調整し予算内に収まるようにしているとの意見もあった。また同一事業については3年で打ち切りと決めている区もあった。1年では実施が難しい事業を5年、10年と長期で考えることも悪くはないが、やはりマンネリ化し期間を延ばすことで事業効果が薄れてしまうため、3年で終了するようにしてもらって

いるという区もあった。

次に、提案事業について、結果はどうであったのか等のアフターフォローが更に必要ではないかとの意見もあった。資料の中では毎年は検証・評価を実施しないとあったが、課題となっているものについては必要との意見もあった。

次に、若い世代や女性の参加率が非常に低いため、行政から何かしらの指導を求める意見も出た。

会長会議は2時間ほどであったが、会議後の懇親会でも各々の実状について意見交換を行うことが出来た。高士区・津有区の雄志中学校区の会長とも話をすることも出来た。後ほど話が出ると思うが、これらの区は諏訪区と似たような環境であり、抱えている課題や問題点、また会議の進め方について意見交換をする場を求める声があった。

以上で報告を終了する。これらの報告について何か質問等のある委員の発言を求める。

（発言なし）

以上で、次第2議題「（1）報告事項」を終了する。

次に、次第2議題「（2）自主的審議事項」の「移住促進諏訪の会による視察結果について」に入る。11月12日に移住促進諏訪の会が地域活動支援事業を利用して須坂市とNPO法人ざいごう（以下「ざいごう」という。）に視察を行った。参加した自分と川上副会長から、その概要と感想を伝え、当日参加できなかった委員と情報共有をしたいと思う。

当日は7人で視察を行った。1年前にも同場所に視察を行っているが、昨年聞き漏らした内容や更に聞きたい内容がありより見識を深めるために改めて視察を行った。さいごう・須坂市役所ともに、昨年よりも進歩や効果は出ているが、問題点も出ているようである。例えば、市内に移住希望者のための体験施設があるのだが、同じ人が何度も利用するケースやスキーを持参してホテル代わりに利用するケースもあり、移住する気持ちがあるのか疑問に思うこともあるとのことである。

次に、情報発信についてだが、夏前に越前浜への視察を行った際、インターネットを利用して地域情報を発信しており、問い合わせも多く非常に効果が出ているとの話であった。最近はインスタグラムやフェイスブック等、情報を発信・収集出来

る手段が多くあるが、須坂市ではこれらの手段の使用方法が分からずに苦労しているとの話であった。やはり、地域住民からの協力を仰がなければならず、単独で行動しても何の成果も効果も出ず、むしろ批判を受けることも考えられる。そのため、しっかりとした情報を発信し、地域住民から認知してもらうことが大切であると考えている。先日、上越市の職員が来られ、協力できることがあれば力になりたいとの言葉を貰った。山間地でもなく平地である諏訪区を認識してくれているのは、これまでの情報発信の成果だと感じた。

進め方について、一言でいうと、ざいごうは民間主導、須坂市は行政主導であるが、話を聞けば聞くほど自分たち諏訪区で出来るのか不安になり、片手間では出来ない活動であるため、本腰を入れなければ難しいと考えている。視察先では地域紹介のパンフレット等を多く出しており、諏訪区でもパンフレットがあれば良いと思った。他の人に説明する際に口頭ではなかなか説明しきれないため、良い所・悪い所を紹介したものがあっても良いと考えている。いずれにしても、諏訪区でも話し合いばかりでは何も進まないため、具体的に一歩ずつ進めていかなければならない。一方、視察した地域になぜ人が入って来るのか疑問との声もあった。信濃町は降雪量も多く、また人口も減少している。また目立った観光地もなく冬は氷点下になることもあり非常に寒い。しかし、インターネットで良い所・悪い所等の情報をしっかりと素直に発信しアピールしている。最新の情報発信の仕方をもっと勉強しなければいけないと感じている。また、須坂市では月に1回東京に出向き相談会を行っており、専門の担当者が国家資格のキャリアコンサルタントを取得し相談に応じているとのことである。須坂市は長野市のベッドタウンであり、前回視察した越前浜も新潟市のベッドタウンのため同じである。高速道路インターチェンジや新幹線駅まで近いことをPRしているとのことであった。諏訪区は高田・直江津のベットタウンになり得るのかと考えている。さらに須坂市役所には移住及び就職を支援する係があり、本来は移住しても自力で就職先等を探さなければならないが、担当の係に行けば相談に乗ってくれる。このような「須坂方式」が現在注目を浴びている。行政が個人の就職にまで手助けしてくれるのは、須坂市が初ではないかと考えている。しかし、そこまで行わなければなかなか移住者はいないように思う。係が支援した移住者の数が100人を超えたと新聞に掲載されたとの話であった。

次に、ざいごうと須坂市では攻める方法が全く違う。ざいごうは「空き家があって、そこに住んで下さい」との紹介方法。須坂市は「仕事を先に探し、移住したい人の家を後に探す方法」であり、移住者を増やす目的は一緒だが、攻める方法が全然違う。諏訪区ではどのように攻めたらよいか考えている。須坂市では企業紹介として求人企業ガイドブックを作成して配布している。43ページもある冊子を移住支援チームが作成し、移住者へ案内しており、大変に効果を上げているとのことである。諏訪区は近くに三和工業団地があるため、求人を募集している企業があれば取材して資料を作成することも出来ると考えている。

次に、ざいごう・須坂市ともに移住体験施設があるが、上越市にも何か所かにある。ただ、上越市は中山間地域のみである。諏訪区は平野部のためこのようなところは利用が難しいためこの体験施設を利用しても、諏訪区の雰囲気が伝わりにくいと思っている。そのため、諏訪区にも体験施設が出来れば良いと考えている。また、ざいごうのように気軽に集まって話が出来る場所があれば良いと考えている。ざいごうでは移住体験施設の一角にこのようなスペースを設けている。

次に、1年前に視察した際に話を聞いた須坂市のひとり親家族の移住促進制度については、なかなか思うようには進んでいないとのことであった。やはり都会で貰える賃金と地方とでは、かなりの格差がある。また福利厚生面でも同様であり、ひとり親家族が地方で生活することはハードルが高いため、あまり活用されず移住が進んでいないとのことであった。

次に、助成についてだが、移住者への引越し等にかかる助成金制度があるところも他ではあるが、須坂市では助成金制度は廃止した。しかし、助成金制度がなくても良い所であれば人は集まってくるのだと思った。自信を持っており非常に元気を感じた。

最後に、諏訪区でも空き家が少しずつ増えてきており、10年、20年後を考えるとだいたいのことが予測できる。そのため、今からどうしたら良いかを考えて対応していかなければいけないと考えている。

須坂市・ざいごうで聞いた話は、箇条書きでお配りの資料に記載してある。参考までに一読してほしい。以上で自分からの報告は終了するが、視察に参加した他の委員からも一言ずつ感想を願う。

【川上副会長】

対応してくれた須坂市の担当者がしっかりとしていると感じた。やはり、片手間で出来ることではなく、本腰を入れて行わなければならないと思っている。諏訪区では話し合いは以前より行っているが、現実はなかなか前に進んでいない。これをどうしたら良いのか。そこを具体的に話し合っていかなければ一向に前には進まないと考えている。前回の地域協議会で諏訪区内の空き家についての話が出たが、実際に空き家がどうなっているのかといったところまでは話が進んでいない。まずは空き家問題を掌握していければと考えている。ただ本当に出来るのか自体が心配になって来ている。

須坂市で国家資格を取得して活動している女性の方の熱の入れようは、本当に素晴らしいものであった。須坂市は行政主導で取組んでいるため、それも信頼性に繋がっているように思う。上越市でも民間の活動に協力して取り組んでほしいと考えた。

【内山惠悟委員】

諏訪区で考えた時、移住促進を本格的に開始して１年が経過しても、何も成果が出なければ、心配する声が上がって来るのではないかと考えている。地区の住民がそれを我慢出来るのか心配である。しかし、心配の声に対しても協力し対応できる体制を作っていかなければいけないと思っている。

【内山松男委員】

担当者が本当に真剣に相手のことを考え、先のことまで読んで対応していることに感心した。移住を考えている人が現地を視察したくても時間がない場合、担当が様々なことを調べてアドバイスしている。ざいごうでは地域のことにも色々と相談に乗り、土地の値段や対応等、関係団体と連携を取って真剣に取り組んでくれるところに魅力を感じて移住を考えるのかもしれない。

【川上奈津子委員】

ざいごうと須坂市では攻め方が全く違うが、どちらも確実に移住者を増やしている。諏訪区では移住促進に向けて、まずは今できることから視察した市を目標に進んでいきたいと思った。今回の視察は少人数で行ったため、相手方が雑談のように色々と話してくれて、前回は聞くことが出来なかったことも聞くことが出来て本当

に成果のある研修であった。

【山岸一之委員】

今回、初めて視察に参加した。ざいごうで代表をしている古澤さんが上越市清里区の出身であったため親近感が湧いた。とても人当たりの良い人で、訪ねてくる人の気持ちが分かった。場所的にも広く中山間地のような所で、畑があり近くには保育園や小中一貫校もあった。年齢的に考えると、ざいごうは定年を迎え第2の人生として移住してくる人が多いように感じた。逆に須坂市は行政が主導となり、正規職員ではない女性の担当者が国家資格まで取得して非常に一生懸命に取り組んでいた。また企業も移住促進に賛同し展開しているため、比較的若い世代をターゲットに移住者を獲得しているように感じた。

【星野会長】

やはり実際に現地に出向き、生の声を聞く事が大切であると感じている。今ほどの報告について、質問等ある委員の発言を求める。

（発言なし）

以上で次第2議題「(2) 自主的審議事項」の「移住促進諏訪の会による視察結果について」を終了する。

次に、次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認」について、事務局に説明を求める。

【野口係長】

・次回の協議会：1月24日（木）午後7時から　諏訪地区公民館　集会室

・内　容：平成31年度地域活動支援事業・採択方針等の見直しについて

・その他：12月16日（日）地域活動フォーラムの案内

ここで1件検討いただきたいことがある。当初スケジュールで開催を予定していた、諏訪区・津有区・高士区の区合同の研修会・意見交換会について、今後のスケジュール等を踏まえ、実施の有無について検討してほしい。

これまでは雄志中学校生徒との意見交換会終了後に実施していたが、今年度は生徒との意見交換会を行わないことと決めたため、各区の意向を確認する必要があるため、諏訪区として開催する意向があるか否かを検討してほしいと考えている。3区は同じ中学校区でもあり、地域活動支援事業や自主的審議事項等の共通した話題

も多い。参考までに、高士区と津有区では開催を希望している。検討をお願いする。

【星野会長】

今ほどの説明にあった、3区合同の研修会についてであるが、高士区・津有区ではすでに開催を希望している。諏訪区としての意向を決定したい。3区では同じような課題を抱えており、それぞれの区が苦慮している。課題に対する解決策・対応策について意見交換し、交流を持ってはどうかと、昨年より会長会議等で2つの区の会長と話をしていたこともある。諏訪区としての意見を求める。

【山岸一之委員】

実施して良いと思う。

（「よし」の声）

【星野会長】

では、諏訪区でも開催を希望することに決定した。

他に何かあるか。

（発言なし）

以上で、次第3「その他」を終了する。

・会議の閉会を宣言

9　問合せ先

自治・市民環境部自治・地域振興課中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mailchubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。